

牛久：学校周辺に見る自然

第66号

ひたち野みずべ公園(ひたち野うしく小)

2021年3月19日発行

< 花や樹形、その他 >

ひたち野うしく小4年生と歩いた、冬のみずべ公園。今回は、咲いていた花や木の形などです。



サザンカ(左)とセイヨウタンポポの花(右)。



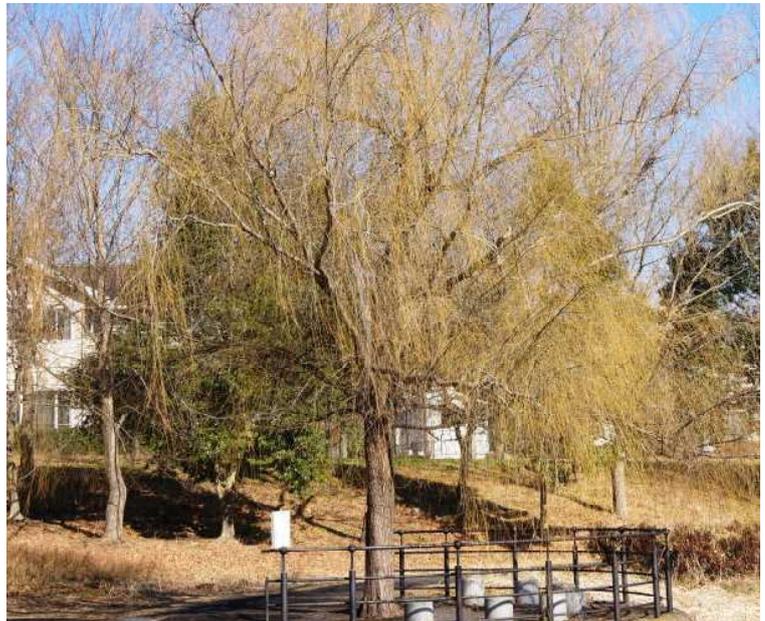
針のようなスギの葉と、一つついていた球果。

咲いていた花では、サザンカとセイヨウタンポポが見られました。カントウタンポポなど日本のタンポポは春に咲きますが、セイヨウタンポポはま冬をのぞきほぼ一年中咲きます。また、ま冬でも花にはハナアブのなかまが来ていることがありますが、この日は見つかりませんでした。

ビンゴシートにあったスギの葉はすぐ見つかりましたが、そこに一つついていた「球果」も見つけ

てくれました。マツのなかまの「松ぼっくり」に当たるものです。

ケヤキなど落葉樹は、冬には葉を落としているので、樹形を観察しやすくなります。シダレヤナギやケヤキの枝ぶりは特徴的で、遠くからでもそれと分かりますね。他にどんな形のものがあるか、調べてみませんか？



冬には葉を落とし、樹形が分かりやすいケヤキ(左)とシダレヤナギ(右)。



キヅタなどツル植物は、他の木の幹を登りながら葉をを広げていますが、それぞれどのようにして登っていくのでしょうか？じつは、種類によって登る方法が違います。確認できましたか？

ハイゴケなど、コケのなかまは、湿り気さえあれば冬でも元気そうに見えます。その他、植物ではありませんが、カワラタケなどきのこもいくつか見られましたね。これらは、弱った枝を土にかえすはたらきをしてくれます。宝石のようにきれいな樹液を出している木もありました。 【理科支援員：宮内】



他の木の幹を登るキヅタ（左上）。冬でも元気そうなハイゴケ（中）。

ひざ陽射しを受け、宝石のようにかがやく樹液（右上）。弱った幹や枝を土にかえすカワラタケ（右下）などのキノコ。